

しおんだより VOL.71



臨床研修医がやってきた ヤア！ヤア！ヤア！

ご存じの方も多いと思いますが、当院はこの10年ぐらい、病院のあり方を変え、医療のレベルも少しずつ高めて参りました。ご実感いただいている読者の方もいらっしゃるのでしょうか…？

当院で私が行っている訪問診療にも同行。医師・薬剤師・看護師の連携も間近で見ただけでした。

ただ、未来ある若手医師の臨床研修をお受けできるというのは、病院の医療・看護レベルもさることながら、いわゆる病院のイメージや知名度、陣容から考えてもなかなか高いハードルだと思ってきたのも事実です。

それが、今年度から、私が30年前に臨床研修医として過ごした大阪急性期・総合医療センターから1ヶ月間、「地域医療研修」を目的に卒後2年目の医師がお越しになることになり、8月中旬から越智淳平先生がお越しになりました。内視鏡検査や処置、外科手術、救急患者対応など色々な場面に積極的に取り組んでいただき、私たちおじさんも大変刺激を受けました。私と同じ外科医局に所属されとかで、自分の30年前を見ている気分になりました。あんなにイケメンではなかったけれど、髪は黒かったなあ…。

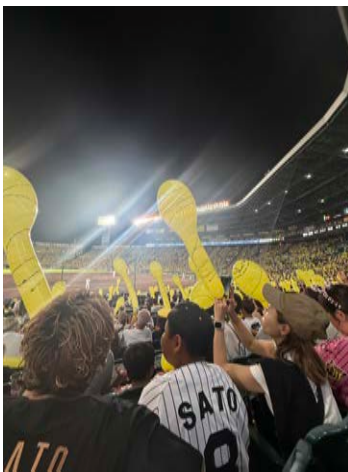
栄養とカロリー確保のために

当院は、「高齢者医療の最適ソリューションを提供する」ことを強化していきたいと、日夜様々な取組を行っています。今年度は、「治す力」「予防する力」「看取る力」「おもてなす力」の4つの力を強化することで、ご高齢の方や、そのご家族、医療・介護関係者の方に「思温病院があるから安心・安全」と思っただけできるよう改善、改革を続けています。

ご高齢の方が体調を崩されると、やはりお口から食べることが難しくなります。そんな時には、短期的であれば、末梢血管からの点滴やお鼻から管を入れて水分や栄養をサポートする方法がありますが、中長期の療養が必要な場合には、やはり、難しいです。当院では、嚥下内視鏡などで嚥下機能を評価した上で、どうしても経口摂取が困難であれば、内視鏡下胃瘻造設術（PEG）や中心静脈ポート留置を行っています。さらに、胃瘻造設をしても、嚥下リハビリや投薬の見直し、食事内容や体位の工夫等を行い、経口摂取の再開を多職種で目指しています。在宅療養中の方で、もし、経口摂取が十分でなくお困りの方がいらっしゃれば、是非、一度、当院までご相談下さい。



当院はもともと外科系病院だったこともあり、当時としては最新だったであろう手術室があり、色々な手術を行っています。



鉄腕強打幾千度、迎えてここに甲子園

8月の日曜日、お誘いを受けて甲子園球場に阪神・巨人戦の観戦に行って参りました。夏の一番暑い時期は過ぎたとはいえ、まだまだ残暑が厳しい中でしたが、首位を走る阪神タイガースの伝統の読売ジャイアンツ戦ということで、チケットは完売、球場も一杯でした。

試合は、ホームランは出なかったものの、阪神が少しずつ得点を重ね、勝利。試合の流れをだいたい見届けた上で、帰りの雑踏を避けなくてはと、7回裏の攻撃途中で甲子園球場を後にしました。

恒例のラッキーセブンのジェット風船も間近で見ることができました。

試合の流れや様々な情報が入ってくることや、選手の表情の見やすさ、さらに快適さを考えれば自宅でテレビ観戦の方がいいのですが、球場の雰囲気や「おーっ！」という歓声を感じつつ、プロの華麗なプレーを見るのは、やはり現場観戦ならではの醍醐味ですね。（文責：狭間研至）

しおんだより 第71号 発行日：令和8年9月15日

発行人：狭間研至

発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp